

3 学部合同学生セミナー

責任者 コーディネーター	全学教育推進機構 佐藤洋一機構長 医学教育学講座地域医療学分野 伊藤智範教授				
担当 講座	<p><医学部>医学教育学講座地域医療学分野、内科学講座消化器内科肝臓分野、内科学講座消化器内科消化管分野、内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野、内科学講座循環器内科分野、内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野、内科学講座血液腫瘍内科分野、内科学講座神経内科・老年化分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科科学講座、形成外科学講座、産婦人科学講座、小児科学講座、耳鼻咽喉科学講座、皮膚科学講座、神経精神科学講座、放射線医学講座、麻酔学講座、臨床検査医学講座、救急・災害・総合医学講座救急医学分野、救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野、病理診断学講座、<歯学部>歯科保存学講座う蝕治療学分野、歯科保存学講座歯周療法学分野、補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野、口腔保健育成学講座歯科矯正学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔医学講座関連医学分野、<薬学部>薬科学講座創薬有機化学分野、薬科学講座天然物化学分野、薬科学講座構造生物薬学分野、薬科学講座分析化学分野、生物薬学講座機能生化学分野、生物薬学講座生体防御学分野、病態薬理学講座臨床医化学分野、病態薬理学講座薬剤治療学分野、医療薬科学講座創剤学分野、医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野</p>				
担当 教員	<p>佐藤洋一機構長、伊藤智範教授、滝川康裕教授、下沖収教授、遠藤啓助教、赤坂理三郎助教、橋本朋子助教、石川有助教、内海裕助教、佐々木了政助教、水野昌宣特任講師、高原武志講師、吉田研二講師、坪井潤一助教、出口博之講師、及川伸也助教、本多孝之講師、小山理恵准教授、亀井淳特任准教授、金城伸祐助教、赤坂季代美助教、三田俊成助教、田村明生助教、大畑光彦准教授、小笠原理恵助教、鈴木泰准教授、高橋智弘講師、上杉憲幸講師、千田弥栄子助教、村井治助教、野村太郎特任講師、田邊憲昌特任講師、玉田泰嗣助教、角田直子助教、小泉浩二助教、樋野雅文助教、佐藤健一教授、佐藤雅仁准教授、星野正行助教、佐藤和朗教授、森川和政教授、岸光男教授、千葉俊美教授、野中孝昌教授、阪本泰光准教授、毛塚雄一郎助教、河野富一教授、田村理准教授、藤井勲教授、杉山晶規准教授、川崎靖助教、中西真弓教授、奈良場博昭教授、西谷直之教授、大橋綾子教授、白石博久特任教授、佐塚泰之教授、小澤正吾教授、幅野涉准教授、藤本康之准教授、那谷耕司教授、大橋一品准教授、三部篤教授、手塚優助教、工藤賢三教授、朝賀純一准教授、平船寛彦助教、高橋宏彰助教、高橋寛教授、松浦誠特任教授</p>				
対象学年	6年（医歯薬3学部）	期 間	前期	区分・時間数	演習 8時間

■ 学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、修得した医学・歯学・薬学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多方面から検討する。

■ 教育成果（アウトカム）

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、それぞれの職種が患者と家族に向けて、あるいは職種間で最も適切なコミュニケーションをどのようにとれば良いか行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。（ディプロマ・ポリシー） 医 DP 1,2,3,4,5,6,7,8
歯 DP 3,4,5 薬 DP 2,3,5,6

■ 到達目標（SBOs）

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を説明できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点を抽出し、解決策を提示することができる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスにおいて、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒に病の克服に向けた活動をするための、インフォームドコンセントや生活指導を試みる。

■ 成績評価方法

ルーブリックによりチーム作業を評価（60%）、他発表会評価（20%）、成果物評価（20%）により評価する。
欠席者については別途課題について指示指定するものとする。

■ 事前学修時間・内容

事前に提示された症例について、各学部の専門分野に関連して病態生理や治療方法等について、教科書や参考書、図書館を利用して調べ、学部内で討議して治療方針の根拠や注意事項について他学部にプレゼンできるよう準備すること。以上の作業には、およそ7時間以上を要する。

■ 特記事項・その他

開催日：平成31年4月20日（土）9：00-17：00 会場：矢巾キャンパス